

人生を楽に生きるためのメッセージを箸蔵寺のご住職に伺いました。

人生 応援 メッセージ

企画・制作／徳島新聞社営業局

筆者ご紹介

真言宗御室派別格本山
箸蔵寺 第六十四世住職
さとう せいじん
佐藤 盛仁氏

【略歴】北海道大学経済学部
経済学科卒業・総本山仁和寺内仁和密教学
院卒業。高野山大学院修士課程密教学科修
了。箸蔵寺に入山の後、徳島県教育委員会の
委員、委員長を歴任。他にも多数のキャリア教
育関連の講演実績があります。

・箸蔵寺公式サイト <http://www.hashikura.or.jp/>
・ブログ「法爾自然」 <http://www.hashikura.or.jp/blog/>

「人権」という言葉は、今の世の中で最も必要とされている言葉の一つですが、仏教の經典の中には人権という言葉はありません。それは、人だけでなく、この世の全てのものには「いのち」があり、それは全て尊いものだと考えられているからです。教えの中にあるのは「生きる権利」ではなく、「生かされている感謝」です。「生きるためには奪って当然だ」という考えではなく「他の、大切な『いのち』を頂戴することによって、私達は生きていくことができます。ごめんね、ありがとう」という考え方なのです。

ここに一つのケーキがあり、これを五人で分けるとします。もし、五人全員が「自分には食べる権利がある、食べられるだけ食べたい」という、奪い合う心を持った場合、平等に五分の二つのケーキが切り分けられるでしょう。それとは逆に「このようなものが食べられることに感謝し、みんなで分かち合いたい」と、全員がお互いを思いやる心を持った場合、こちらが仲良く五分の二ずつ食べようということになるでしょう。このように、結果は同じ五分の二ですが「権利の五分の二」と「感謝の五分の二」どちらの方が心豊かな五分の一なのかは言うまでもないことです。

しかし、世の中はそんなにうまくいくものではありません。五人のうちの誰か一人が「もらえぬものは全てもらいたい」という考えの人だったら、ケーキは独り占めになってしまう。だからこそ、権利というものが必要になってきます。権利という言葉は、それを奪おうとするものがあって初めて生まれてくる、悲しい言葉だと思っています。

よく「人権感覚の行き渡った世界をめざす」というスローガンを見かけます。しかし、親が子を育てるのは、親が憲法第二十五条第一項の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」などの、権利を理解しているからではないと思います。きつと、自分の元に生まれてきたことに感謝し、健やかな成長を望みながら子供を育てているのではないのでしょうか。中には、残念ながら、様々な理由でそういう心を持ち続けることができない親によって、育児放棄、虐待が起こることもあります。そんな時、初めて「子どもの生きる権利」という言葉を使う必要が出てくるのです。しかし、これも、本来大切にすべきものは、権利ではなく「いのち」そのものです。

かつて、教育委員の時に触れた「誰にでも人権はある。自分だけでなく他者の人権を尊重する」という人権教育の方針は本当に素晴らしいものでした。ただし、私は「人権」という単語が出てくるたびに、それに「いのち」と、ふりがなを振って、心の中で読み替えていました。それでも意味は繋がりに、むしろ「いのちの教育」の方が、大切にすべきものはつきりと見えていました。

この世の中、奪おうとするものがある以上、権利は必要とされ、ていくのだと思います。しかし、決して権利が行き渡ることが最終目標ではなく「いのち」そのものを大切にし、権利などという乾いた言葉を口にしないで済む世の中を目指していきたいものです。

皆さまの
ご感想を
お待ちしております！

この紙面に対する感想や取り上げてほしい内容などがありましたら、お気軽にお寄せください。郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号をご記入の上、〒770-8572徳島新聞社営業局営業部「人生応援メッセージ」係までお送りください。

※お送りいただいた方の個人情報は、当社で厳重に管理し、ご本人の同意なしに第三者に開示、提供することはありません。